WASON
HQ
1104
J74+

Sept 1893
no. 353

明治廿六年九月十六日發兌

女學雜誌

第三百五十三號

女學雜誌社

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

本號目錄

社説

第一回女子夏季學校
閉校所感◎景況大畧◎學事及會計報告
◎女子教育者懇談會

兒鑑

いわひ歌（第一曲）

家政

家内重寶錄（靴下つくろひ方○米粉のころも○簞笥の虫くひ○胡椒茄子の一夜づけ○切り傷の妙藥○絹布に泥○病人のなくさめ○麥藁帽子と油畫）
家内貯藏法（葡萄貯藏法○菓物貯蓄法○根菜の貯蓄法）
田家のこよみ○園藝法

理學

燐のはなし（三）

雜錄

安息日學校の説

小説

春風裡

女報

前號目錄

社説

日本の花嫁○相馬家疑獄と廢妾論○女子教育者の會合○岐阜縣下の洪水

雜錄

田舍雜話（松茶村。若旦那。小説家。新聞雜誌。村長一對。殿様。風狂病）
風潭老人
日本昔時の女權論（山下石翁）

兒鑑

犬つくをどり（若松しづ子）

小説

春風裡（トオストイ作、不知庵主人譯）

史傳

坂本龍馬氏の未亡人を訪ふ（在峡。山本節）

理學

燐火（二）けい子

家政

家内重寶錄（あん衣もち。臭のついた玉子。飼鳥のはげ。フランネル洗濯法）

女報

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌
第三百五十三號
明治二十六年九月十六日發兌

社說

女子夏季學校

(一) 閉校式所感

第一回女子夏季學校は、非常の祝福と、溢るゝ計りの感謝とを以て、いと殘り惜しき留別の念ひ切なるの間だに、去七日夜、恙がなく閉校の式を擧たり。

女子夏季學校の名を以て開かれたるは、決して本年を以て最始となさず。去年は、關西に於て、ことしは東北に於て、其聞えありしと記臆す。されど、そは皆な、傳道に從事せられ、もしくは之に關係せらるゝ人々が催ふしにして、事、專ぱら福音宣傳の道に關はりたるものゝ如し。宗敎と、敎育と、女學との三を目的として、靈性及び學術の二つを双らび望みたらん結構は、本年をもて最始とすべし。ことには、京濱間同主義の女學校悉とく連合し、女界の時事に慨する所ろのものありて、遂に發起籌設するに至りたるの主旨より言はゞ、我國に於ては、今回の女子夏季學校をもて、其の最初のものとなさずんばある可らず。

夫れ、結構の由來、如斯くなれば、同主義女子敎育者の間に於ては、亦た、彼此の異論ある可きにあらず。皆な、一意同念、以て此事に協贊し、合力すべきは言ふとをまたず。幸ひにして、實際の景況、よく此旨に合せしかば、則はち、如此き好結果を奏するに至りしなれ。

然りと雖ども、世事多くは、意外の影響あり、其影、其形に異なり、其響、其音と違ふもの、尠なしとせず。最初、女子夏季學校の設けられんとするや、一の反論、意わざる辭柄をもて現はれたり。其主旨とする所を聞けば、云く、女子は決して男子と事々物々を別にすべきにあらず、ともに一つの事を相分ちて、毫も不自由あるべからず、夏季學校の如き、其講話は、男子が聞きて瞭解し得ると共に、亦均しく女子の瞭

解するを得る所ろ也、其精神上の集會は、男子が列して益を得ると共に、亦均しく女子が益を採るとを得べき所ろ也、何んぞ特更に、男女を分ち、各自に適する所ろを別々にするの必要あらんや、もし、强ひて、如此き計畫を成すに於ては、女子は男子の聞きて瞭解するとを得る講話をともに瞭解するの能力なきもの也、亦女子は男子が益を得るほどの靈會に臨んで、其益を分つとを得ざるもの也、と斷ずるに均し、眞とに是れ、女權を蔑しろにするの見解にして、女性が身にとり、油々しき無禮なり、と。

あゝ、如此き反論は、辨ずるに足らざるものなり。されど、其の精神の、女權を重んずるより發するとを知るときは、豈一片惻隱の情なしとせんや。發起者が、淳々として、其誤解を辨正するとに力めたるの衷情、察すべきものあり。

もとより、男女ともに、一つの夏季學校に列しがたきの事情ありとせず、亦之に列するとを能はざるほどの懸隔ありとせず、何ものゝ痴漢ぞ、今日に於て、かゝる迂論を立つるとをかせん。然りと雖ども、從來の夏季學校に於ては、講師は、すべて、男性にして、女流先輩中、一人も之に應ずるものあらず。講話の種類、及び目的、みな、男書生の爲めにすることに偏して、兎角、婦女子に對するの心得を置かず、寄宿、運動、集會の準備等も、未だ全く女性の爲めに盡せりと言ふ可からず。こゝを以て、女生の來會するもの、極めて尠く、毎年總數の二割以上に上ると稀なるの次第なり。されば、別に女子夏季學校なるものを開きて、此等諸種の不便を便じ、且つ女講師の講話と、取分け婦女子に對するの敎訓とを多く聞かんと欲するは、尤とも至極の希望にはあらずや。

舟の行くや、所々窮まる邊あり。一事の計畫も、亦幾度びか、窮する所ろなきにしもあらず。今回の女子夏季學校に於ける故障なるもの倘更に存したりとせば、從來同主義女學校の間だに、意外の行違ひなるものありて、空中の樓閣、意外に堅固に、其基礎なか〳〵動かしがたきの事情ありたるなど、其一にてやあるべし。

此等、一つ二つの故障あり。取分け、女性に關する事業の常として、最初二三回の經驗は、大抵泥濘中に沒すべきものと覺悟し、今年第一回の女子夏季學校には、出席者百人に超ゆべからず、もし一百人に達せば、幸はひならんと思ふもの多

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

かりしに、事は意外にして、存じの外の成効を來し、來會するもの二百四十餘名、西京より、神戸より、靜岡より、甲州より、來り集まるものすらあり、一週の日數をもて極めて殘り惜しとし、來る年の第二回の爲めに、活氣ある議決を定め、餘情戀々、快意爽々として、四方に散りゆくの次第に終りたる所以のものは、眞とに是れ望外の出來事たり。惟ふに、氣運到來し、女界の潛勢力正さに頭をもたげ、人々有爲の意象、期せずして相合せしものか、玆に、謹しみて其榮ある閉校を祝すと云ふ。

（二）景況大畧

女子夏季學校は、八月卅一日夜開校式を擧げ、爾後毎朝六時より、七時迄、祈禱會を催ふし、朝は九時半より、午後は三時より、夜は七時半より、三度の集會を催ふしたり。其執行順序、大畧左の如し、

八月卅一日　木曜日

開校式午後八時より　主會　田村武治君
音樂
聖書朗讀　田村武治君
祈禱　フレンド女學校　ガンドレー女史
音樂
開設由來及希望　明治女學校　巖本善治君
講師及生徒歡迎　フェリス女學校　星野光多君
音樂　フェリス女學校　デョー女史
勸告　聖經女學校　稻垣末子
音樂
祝禱　フェリス女學校　ブース氏

九月一日　金曜日

朝　聖別獻身及び祈禱の勢力　海岸女學校　スペンサー女史
星野光多君
夜　女子教育　女子高等師範學校　中川謙二郎君

九月二日　土曜日

朝　靈性上の生涯及び發達　捜眞女學校　カンパース女史
明治學院　井深梶之助君
午后　盲啞教育　東京盲啞學校　小西信八君
夜　室家　フェリス女學校　ブース君
女子と職業　東京英和女學校　田村武治君

九月三日　日曜日

晩餐式午后四時より　主會　稻垣信君
說教　植村正久君

九月四日　月曜日

朝　聖書研究及び安息日學校　原田助君
デョー女史
午后　（一）女子教育と武道　明治女學校　星野愼之助君
（二）日本女醫の由來及び前途　右代　明治女學校　萩野吟子君
夜　清聖の文學　ホイト子ー氏
論畫の精神及其教授法　植村正久君
小山正太郎君

九月五日　火曜日

運動會

九月六日　水曜日

朝　基督教徒の熱心及び事業　獨立女學校　小方仙之助君
午后　海外に於ける日本の婦女　ツルー女史
夜　文學會　女子と文學　共立女學校　安藤太郎君
生徒及有志者
戸川安宅君

九月七日　木曜日

朝　基督教徒の愛　フレンド女學校　ガンドレー女史
午後　（一）維新後女子教育の經歷　右代　東京英和學校　本田庸一君
女子傳道學校　櫻井近子
矢島かぢ子
（二）米國女子大學校内の景況　右代　華族女學校　津田梅子
小鹿島筆子
夜　閉校式　主會　小方仙之助君
音樂
聖書朗讀　稻垣末子
祈禱　小方仙之助君
音樂
報告
一般
會計
一同
音樂　田村武治君
次回夏季學校員撰定　デョー女史
音樂
謝辭　巖本善治君
音樂
祝禱

明治廿六年八月三十一日　女子夏季學校

右の諸氏演説の主旨は、英和の兩文にて悉く筆記せられ、二冊の報告となりて、遠からず出版せらるべしと謂へば、吾人は、今ま茲に之を掲載することをせじ。たゞ、其うちの二三を畧許して、他の全斑を推考せしめんと欲す。

開校式に於ける、デヨー女史の勸告は、先づ聽衆をして耳を聳やかしめたり、肉と心との關係を推し及ぼして、智慧と靈性との關係を示し、身躰强健ならぬ人の心意兎角捗々しからぬことを憾むよりして、靈性の進歩に、智慧の大切なることを推考せしめ、以て此度の夏季學校中、熱實なる靈性上の修養と、聰慧なる學藝上の智識とを兼ね收めんことを勸告せられたる、議理の明晰にして、立論の確實なると、心あるものをして頗ぶる敬服せしめたり。

金曜日に於ける、中川謙次郎氏の女子敎育説は、高等、中等、初等の女子敎育と、三段に分ちて、段々に分説し、各部の必要と、其學科課程と、其敎授法とを、仔細に敎示し、基督敎派女學校の世上に歡迎せらるゝこと薄き所以を、率直に忠告し、宗敎々育衝突論の迂なるを誹り、宗敎家の猛省を促がせる一段の如き、氣焔万丈の觀あり、敎外文士の意見としては、尤とも進歩したる、尤とも公平なるものなりとて、滿足し、悦喜したるもの尠なからず。

土曜日に於ける、カンバース女史の演説は、其論理よりも、其の雄辯に感じたるもの多し。ことに、其風采卓落として、英姿颯然たるを見て、前日に於ける、スペンサー女史が、温雅、優々、信仰の愛に溢れたる狀に比較して、女德發達の二種の實例を目擊し、心を强うせりと言へるものあり。カンバース女史の演説を通譯したる、エメ、コーンス孃は、年齒凡そ、二十四五には超へざる可きに、巧みに邦語を使ひ、雅言口を衝いて出で、語調、文法、申し分なく、滿堂玉を轉ずるの妙音に反響せしめ、一時がほど、聽衆たゞ恍惚として、辯者の口の邊りをのみ打眺めたると、眞とに非凡の技倆なり。同時に列席したる井深梶之介氏は、名たゝる通譯の士なるが、之を聞きて亦た舌を卷き、感歎措かざるの躰なりき。

同日午後、小西信八君が盲啞敎育の演説は、人をして感激禁ずること能はざらしめたり。同君が十數年來の友前夜永逝し、君之が爲に三夜眠らざるにも係はらず、此日强ひて出席し、盲人一名、啞生二名を同伴して、其敎授法を演説し、且つ實

地の演習法を示さる。之に先だち、君が盲啞敎育の由來、困難、及び盲啞生に對する世人の同情を求むるヿなどを演說せられたる時に於ては、語々涙にしめり、聽者をして首を擧ぐる事能はざらしめたり。君が、不具にして且つ狂せる所ろの愛兒一人を有すと告白せられたる時に至りては、聽くもの、殆んど、息を閉づるの感ありき。盲啞生が修學の困苦如此く、之を敎授するの苦心亦如此し、左れば、尋常健康の學生が、十分なる敎育を受くるの學問に於ては、進歩當に十百倍すべき筈なりと警戒せられたる一段に至りては、聽衆皆な背に汗したるならん。其後、盲人が、凸字を韻讀するの試驗に於て、或人、

　惠の光は、吾等がさまよふ、暗路を照せり、神は愛也。

の一曲を凸字に譯書せしめ、之れを與へたるに、小指一觸して、乍まち口頭朗々として、彼歌を高吟したる、聽くもの感ぜずと云ふヿなし。又、啞生二人が、唇の働くさまを見て、音義を解し、或は、カナに漢字を當て、其學力を示し、席上、揮毫して、書畫の才を顯はし、最后に、當日の祝詞一章を聲高らかに朗讀せるに至りて、聽者感歎措くヿ能はざりき。

植村正久氏が、說敎及び文學上の講話は、事新らしく書かんは、用なし。星野愼之輔氏が、武道の辨は、禪味幽邃にして、一風異なりたる靈采此の壇上にきらめきぬ。すべて、此二氏の演說や、一は、超絕秀妙なる靈性上の趣味に於て、他は鬱勃燆烈なる武人氣質の趣味に於て、ともに本週幾多かありし他の演說とは、頗ぶる異樣の觀を呈せし也。運動會及び文學會の二つは、遠慮逡巡して捗々しからぬヿなからずやと掛念せしは、寧ろ杞憂に屬し、共に格外の盛況なりき。

水曜日、安藤太郎氏が、海外に於ける日本婦女の說は、香港、上海、布哇等に於ける出稼婦女の取締方に關はる、同氏が實歷を敍し、其一弊除き去りて百弊隨つて生ずる困難疊々の景況を擧げ、極めて愼しみたる語調の中に、二三の尤とも甚しき實例を擧て、他の一斑を推測せしめたる、眞とに是れ浩歎無量の感慨にてありき。后ちに、或人立ちて、ジヨセフヒン、バットレル夫人が廢娼運動の事を說き、矯風事業の妨害は、社會の害惡にあるヿ少くして、貴族的、僞善的の、禮法上束縛にありと慨し、如此き演說が今回貴婦人令孃の前に演

べらるゝに至りし所以を説明せるに至りて、安藤氏演説の語半ば、洋婦人數名が突然席を立ちたるに對して、辯正有力の心地したり。

文學會の時、戸川安宅氏が、女子と文學との關係を演説せられたる中に、平家時代、室町時代、徳川氏時代の代表的婦人を列擧して、我國の歴史に幾多の女秀人ありと示し、伊勢物語、源氏物語、平家物語、八犬傳等を引證せられたるは、頗ぶる、有益の講話にてありき。而して、其の良夫人の一例を説ける段に於て、我國には、夫の胸倉を取らず、燒もちを燒かず、戸の外に〆め出さゝる所ろの優雅なる妻ありたりと演べられたるなど、同氏特得の面白味滿分にして、當夕の演説は、別しての出來なりしと評せらる。

右戸川氏の演説筆記と、安息日學校に對するデヨー女史の、講演大意とは、本紙上に於て、讀者の一覽に供せらるべし。

デヨー女史が講演は、つねに明断、堅實、有益にてありしが、安息日學校の説は、ことに然なりき。本紙別欄に掲出するものによりて、其大躰を知諒することを得んか。

櫻井、津田、荻野三女史が、或は病により、或は急用の旅行によりて欠席せられたるは、遺憾なりと雖も、みな夫々の代辯者ありたるによりて、之を償ふを得たり。中にも、小鹿島筆子の演説は、語少く、意長く、ミッション、スクールと、當世の女學とを戒しめたる意氣太はだ壯んなりと云ふべし。ピートル大帝が女子教育に於ける急激の奬勵、其害を遺し、方今魯國の女學生が行狀餘り見事ならざる一例を擧げたる所ろ、斬新にてありき。

毎朝の祈禱會は、各女學校の女生代る〳〵主會となり、主會は、各々勸話を爲しぬ。所々の祈禱會にて間々見るが如き猶豫漫散のうれひなく、人々先を爭そひて祈り、而も、語少く情熱して、一方ならぬ信念を張らしたるは、會衆一同を感動せしむると少なからざりき。

寄宿舍内には、親睦交際委員なるものあり、胸頭に符號を掲げて標となし、各女生を紹介し、案内し、誘導して、互ひに親交睦和せしむるとを力めたり。

如此くして、講演尚足らず、日亦足らず、餘情尤とも厭き足らざるの時、早くも最終の日たる木曜日は巡り來り、夜七時半より閉校式擧られ、次回夏季學校委員撰定の公案を議すると

とはなりぬ。

此の議場に於ては、今回の委員が提出したる議案そのまゝに嘉定せられたり。則はち、次回の委員は、繼續委員三名と、各女學校の委員若干名とをもて充つ。繼續委員には、西洋婦人と男子とを含まず、純然たる日本婦人を擧ぐるとし、之を本夕公撰するとゝし、今回の委員は、すべて補助員として、助力すと云ふと、これ也。かくて、當撰したる三女史は、稲垣末子、矢島かぢ子、巖本かし子なり。

又、來年の夏季學校は、東京にて開くべきか、將た横濱にてすべきか。尚ほ、春休に於てすべきか、又は、夏の初めか、又は夏の終かと云ふ事を、委員が參考の爲めにとて、公議にかけたるに、横濱に於て、夏の終に開くべしと云ふ方、大多數にてありき。

學事、及び、會計の報告として、閉校式の折に、告示せられたるもの、左の如し（但し、會計報告には、殘務報告なるものをも、玆には合算したり）。校醫六角氏、衞生上の報告あるべき定めなりしが、病めるもの一人もなかりしかば、其事なくして止みぬ。

第一回女子夏期學校報告

一出席者總數　二百四拾七人

內譯 { 寄宿生　八拾九人 / 外來生　百五拾八人 }

一一日聽講　五拾五人

一一週聽講　百九拾二人

各女學々別

フェリス女學校	四拾二人
明治女學校	拾一人
東京英和女學校	拾二人
東洋英和女學校	五人
孤女學院	二人
普連土女學校	四人
聖經女學校	拾一人
捜眞女學校	二拾五人
共立女學校	二拾一人
二百四拾四番女學校	拾一人
二百拾二番女子傳道學校	九人
女子獨立女學校	五人
同志社女學校	一人
女子學院	拾一人
神戸英和女學校	二人
無所屬の分	七拾六人

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

會計

(入の部)

學謝金	三七、〇〇〇円
寄附金	八二、七二〇
布團貸料	四、二九四
女子教育者懇談會の入費	〇、九五〇
賄部殘金	三、〇一二
計	一二七、九七六

(出の部)

講師旅費	二五、九五〇
講師滯在費	二、四〇〇
委員奔走費	六、五九〇
音信費	四、三四〇
廣告代	九、〇〇〇
印刷諸費	三、二〇〇
筆墨紙類	〇、九八五
雜費	三、二九五
校婢僕報勞金	二、六〇〇
運動會補助	六、〇〇〇
文學會補助	六、〇〇〇
フェリス校へ禮謝花瓶代	五、二〇〇
校醫へ禮謝	三、〇〇〇
石油料	四、七五〇
電燈料	五、一二〇
薪及風呂水汲代	二、二五〇
通譯者へ禮謝	二、〇〇〇
講師の內、中川、小山、小西三氏へ遺物	四、〇〇〇
外塾へ禮	〇、五〇〇
布團借賃	五、四一六
賄方へ報勞金	二、〇〇〇
賄方女中へ同	一、〇〇〇
教育會準備奔走費	〇、二〇〇
教育會菓子料	一、二四〇
同電燈石油料	一、〇〇〇
計	一〇八、〇四一
差引殘餘	一九、九三五

(三) 女子教育者懇談會

女子夏季學校閉校式擧られたるの翌日、女子教育者懇談會催ふさる。東京、横濱、靜岡、西京、金澤、甲府等よりの來會者にして、女子夏季學校に臨席せざるも、特に此會にのみ、參り合せたるものあり。合計四十六名と聞えたり。當今女子教育躰操の事、高等專門教育の事、校內傳道の事、非運元因及び救濟法の事等、順次に懇談せらる。さま〴〵の經驗說、及び立策方案等出でたれば、一々記載すると能はずといへども、すべて皆な活潑に、よく言ひがたきを言ひ、盡すべきを悉したりと評するとを得べし。

而して、最后、同主義各女學校連合の方案に至りて、基督敎主義女子敎育會を設立するの主旨を以て、先づ東京に設けられたる基督敎主義敎育會の中に屬し、其女子部なるものを新設すべしとの案、並に、横濱なる敎育會と東京なる彼敎育會との合併に付き勸告すべしとの案など評議せられ、其委員撰定せられたり。而して、委員は、先づ一年二回女子敎育者懇談會を開くべしとの方案を議定したりと云ふ也。

兒藍

いわひ歌

第一曲

しづ子

十二月の廿五日といふ日は歐米では大切な日で、老少とも此日を待詫びるヿは、丁度日本人が正月をまつと同じヿでムり升。なに故かといふと、此の日こそは主、基督の降誕ましました日と定めて有るので、其日を祝わふ爲には、何れの家も賑わ敷、子供は遊び、戯れ、成人も年に一扁の大愉快をいたし升。教會にて此の日を紀念する式を擧げ、讃美歌を唱ひ、恨を抱くものすら此の日を期して、和解の手を握るものでムり升。

さて年中に一番おめで度日の曉、家の家根にフワ〳〵した雪の降て居つた頃ベノードといふ人の家に可愛いゝ女の兒が生れ升た。女の兒で有つたら、ルーセといふ名をつけやうといつて居つた譯でしたが、クリスマスの日に生れやうとは誰も思ひよらぬヿでした。丁度クリスマスに生れた赤子などは滅多にない、それ故、命名は疎畧に出來ぬと誰も思つて、更に名を撰のでしたから、家内評議がなか〳〵六ケ敷なりました。家の人たちは、子供の部屋へ寄つて、相談をして居つたのでしたが、主人、ベード氏の申されるには、これまで三人まで男の兒を自分で重に名づけて來たから、今度は妻に任かせてしまわふといへば、總領のドナルドといふ男兒は、學校で自分の次に坐わる愛くるしいドロセといふ女の兒のことを思ひまして、ドロセになさいといふ、次男のポールは、ルエラといふ名が一番好いといふ、これは何故かと調らべて見ると、赤坊の時からポールを育てたばあやがルエラといつたので、何となく心持のよくなる名だと思ふてだといふヿです。ジヤツク叔父さんと呼ばれる人がいひ升には「ナニ始めての女の兒は何でもかんでもお袋の名をつけるもんだ、チト可笑げな名でも」おばあさんも其相談には口は出さぬといひましたが、考へて見ると、その筈、最始ルーセとつけやうといつたのは、おばあさんのお名がそれだからのことで、今、又た相談のしなほしが始まつたとて、是非に自分の名をいひ張るやうなこ

とはならない方だし、またそれかといつて、他の名を思付もしないといふ處からでした。

今まで坊や／＼で、赤ん坊の位置を占めて居つたヒユーといふ三男は何もいはずに片角へ引込んで居り升たが、これは何となく、幅がきかなくなつた心地がして居り升た。新らしい赤ん坊が來たといふので澤山なのに、おまけに始めての女の兒といふので、家中の人のもて囃やすが、やつかめるも尤なことです。

なぜ生れると直から命名の相談をするかといふと、おつかさんといふお人は、御幣を擔ぐといふでは有ませんが、赤ん坊が生れたら、其日の中に名はつけるもの、名なしで廿四時間の上たてば、運が惡るいとかどふだとかいつたことがあるので、此通り打寄つたのでしたが何はともあれ、產婦に尋ねて見るが上策と評議一决して、さては一同退散といふとになり升た。

ドナルドは今度頂いた自轉車を試みるとて庭へ出で、ボールはブン／＼獨樂を廻すとて廊下へ行き、ヒユーは少しくすねた氣味で、そとへも出ず、階子段の手すりへ態と頭をコツ／＼撲ちつけながら、面白くない顔をして「始めての女の兒なんて餘計なものが、また今度生れて見ろ、其まゝにしては置んから」といふ樣な考へをして居り升た。

話し變つて、ベード夫人は、無事に出產を濟ませて疲れはしても、新たに對面した我兒に手枕させながら、母たるものゝ悅びとさらに新らしく感じて居り升た。看護婦は庖厨で粥を拵らへて居り升て、寢室の中はヒツソリとわざ／＼薄ぐらくして有升た。暖室爐の中には火が賑やかに燃へて居り升て、板窓は總て閉ぢ升たが、たつた一ツ隣り地面の教會に接いた方を少し開いて置き升た。

俄かに音樂の聲が流るゝが如く、湧くが如くに室内に漂ひ升た。何かといふと、子供揃ろひが此日を祝わふ祝ひの讚美歌で、淸き聲はいよ／＼澄み渡つて、望と悅びが聲音に充ち滿ちて居り升た。

ベード夫人は夢の中に其音樂を聞き、新たに生んだ我が子諸共、天國の門に詣でゝ、天使か兩人を悅こび迎へて居るかと思ひ升た。然るに、側に寐いつた少さな包みものが少しく動き升て、羽毛の戰ぐほど微かな動き樣では有升たが、夫人は眼を覺し升た。

夫人は眼をさまし、赤子を倚近く引寄せ升た、此赤子こそ、此蕾の小娘こそ、薔薇の花を乳に浸したといわふか、細絹より尚細く軟かき此髮を金色の御光と見て、天人の雛といわふかと眺むる中に、

いわひ、うたへ、けふの日を
　よろこびうたへ、けふの音づれ

"Carol, brothers, carol. Carol joyfully.
Carol the good tidings Carol merrily!

と折かへして聞こへる讃美歌の聲はいよ／＼悦びに溢れて居り升た。ペード夫人は囁く様に低い聲で、

オヤ、赤ちやん、わたしは忘れて居升たよ、けふ何の日といふとを、おまへはクリスマスの見だから「カロル」(歌に)とつけませう——かあさまがクリスマスを祝ふ歌だから！

此時、ペード主人はソット戸を閉ぢてはいつて來て、

何をいつて居るのだ？

アノ一寸、あなた、クリスマスに生れた赤ん坊を「カロル」とはどうでせう、可愛いゝでせう、今しがた、こゝでウト／＼して居升てネ、あの讃美歌を聞いて、フト思ひついたのですよ。

極上策だネ、おまへが丁度つけさうな名だよ、今度は女だから、お袋にチト似て異れゝば好いが。

これを聞いて、ペード夫人は、疲れ切つて居りながらも、賞られて恥かしさと、嬉しさで、顔をホンノリ紅いにし升た。

それで、とふ／＼赤ん坊の名が諦り升た。「カロル」はおめで度日に生れたせいか、大層嬉しさうな赤ん坊でした。クリスマスの眞の悦びを味わひ得る譯はありませんが、めで度、よろこば敷日の精氣を吸ひ、鈴の鳴り音、子供の笑らひ聲を耳にして、世は極樂なりし其日と同化したものと見へ升た。カロルの唇と頬は南天の實ほど眞赤に、其眼は星の光を帶び、其の笑ひはクリスマスの鈴の音の如くに鳴り渡り、其少さな手は絶へず人に物を與へるとを好み升た。

氣まへの好い兒と申したら、不思議の樣でした。カロルが食事をする前には、母かばあやがパンなり、乳なりを、是非一口食べなければならんのでした。菓子にしろ、何にしろ、カロルに遣りませば、直と半分にして、三人の兄のうち誰れかゝまた貰らわなければならんのでした。さうして、兄たちが態と嬉しげにそれを噛る眞似すれば、手を打ちて聲をたてゝ悦び升た。ドナルドは訝しげに、

なぜ、この兒許りこんなことするだらうナ？僕らたちこんなとしなかつたつけが、

といひ升と、母はカロルを抱き〆め乍ら、

どふいふ譯かネ、クリスマスの兒だから、めで度中でも、めで度、降誕日の祝福を少し計り分けて頂戴して居るのだらうかネ。

家政

家内重寶錄

しづ子

○靴下つくろひ方

私も始終靴下をつくろひ候となるが、人に敎へられ候通り、茶椀など中に入れ候て、織るが如く横縦に目を拾ろひ針を運ばせ候にては、何ぶん伸縮みの自由なく、隨つて、繕ろひせし上下より又々穴あき申候、伸縮を自由にする新工風有之間敷や伺上候。

實地試驗いたし候上にて、無雜作なる一方發明いたし候故御傳授申上候。穴を繕ろひ玉ふ時、編物の目通り眞直に針を入れず、一方の角より始めて斜めに糸を掛け始め玉へ、伸縮の上に余程便利に御座候。

○米粉のころも(料理)

さる方にて自慢料理の由、ふるまひうけて宅へ歸りし兄と、牛肉と野菜の甘煮へ米の粉のころもかけて油煎にせよと申付候故、わけもなきこと、早速試み候處、つなぎに玉子を入れ候にも係はらず、何分ボロ〱いたし候て、鹽梅よく參らず、殘念に候、如何いたして宜しきや御敎へを頂き度候

うどんの粉寒洒し粉などは御承知の通り、水にてこね候ものにて、湯を用ひ候へば、造り損ね候となるが、米の粉はこれとちがひ湯にてこねれば工合よろしからず、少し固きほどにこねて試み玉ふべし。

○簞笥の虫くひ

秘藏の簞笥虫ばみ候て、折々粉を落とし、内外に細微の穴を開け候が、果ては悉ごとく虫の巢となり、グサ〱に破ぶれ

候かと心配いたし候。蕃椒水など試み候ふが、餘り効はなきかと被存候、何か除虫の法方もあらば、御教示を願候、

パラフィン油と申藥劑くすりやに有之候はん、これは美事有効のもの〻由に御座候、これを三四回も塗抹被成候は〻必ずき〻めあらんと存候、尤も漆其他ヴァニシなどの上に御用ゐありては、ぬりの禿る恐れ有之候。

○胡椒茄子の一夜づけ

胡椒茄子の一夜づけいたし度、法方御傳授を願ふ

貯へたる鹽づけ茄子をとり、水をよく搾り置きて後、三杯酢をよくさまし、西洋からしをこれに灑き、茄子を入れてよく掻き廻はし、一夜置きて膳に供するに御座候。

○切り瘡の妙藥

子供がいたづらして手に傷つけ候時など、一寸効能あるくすりにても有ま敷や、たゞ切れなどにて結わひ候ても不安心に存候。

御承知の通り、一寸したる切傷などより黴菌の入り込むとま〻有之爲に破傷風其他恐ろ敷病を引起し候と有之候間、何を置きても左樣なとを等閑にせぬ樣いたし度ことと考へ候。されば、硼酸水をつねに貯へ置くが宜しく、大小に係はらず傷したる時直ちに、硼酸水にてよく洗ひ、其上へ瘡瘡膏と申ものきづの大さ丈に切り、一寸水に濕して貼り置き玉はば、癒ゆるまでは離れず、指先などにきづ有ても、つかふに差支なく、何れの藥やにても求められ候重寶品に候。

○絹物に泥

絹布に泥のはね上り候は如何いたして宜敷や御教へを乞ふ

手にて揉み候は宜しからず、第一に海綿樣のものを冷水に浸し、よく濕してとるがよろしと存候、倘落ずば、アンモニヤを少し御用ゐ被成るべし。

○病人のなぐさめ

足部に痛處ありて癒ゆるは半年の後と申渡され、暇の遣り處に困難する婦人有之候、仰に寐たるま〻にて出來候事の中に鬱散になる可きもの有之や御忠告を願ふ。

讀書、細工もの、造花、編物など、さま〴〵有之候若し以上にて御不足ならば、音樂など習ひ玉ふては如何、月琴、二弦琴の類にて半年位の中にも、手輕く覺へらる〻もの

有之候。而して永久我にも人にも樂しみと相成可く候。後々記念して、最も悦ばしからんと思はるゝ消暇法は孤女院の子供などの爲に働らくことを考へ候、友人の中より古き着物などあつめて、腹がけ、前だれの如き少さきもの仕立て寄附し玉はゞ、御病中一身の憂鬱に代へて多數のものゝ悦びを買ひ玉ふべし。

○麥藁帽子と油畵

麥藁帽子と油畵の洗濯法御敎へ被下度候

麥藁帽子にはシャボン水にて洗ひ候が一番宜き樣に考へ候尤も夏過ぎて來年まで藏め候まへに洗ふがよろしく候。油畵の汚れ候て何となく艶がなくなりたる時はたゞ極く軟かき海綿を微温湯に浸し、堅く搾りて少しづゝソッと磨するより外は御座なく候。ソット磨るや否洗ひ洒らしのハンケチか何か軟かき者にて丁寧に濕氣を去り、なる可く温氣をカンヴァスの上に置かぬ樣注意するが大切に御座候。一度拭ひとり候處によごれめ見へ候はゞ又々前の如くにしめして拭ひとるも差支なし。

家内の貯藏法

淡海子

葡萄を貯藏する法

葡萄を貯ふるには、充分熟したる葡萄を採りて、數日間能く乾燥せしめ、別に箱を用意して其箱の底には紙を敷き、其上に葡萄を配布し一層毎に紙を挾み入れ、決して其菓房を互に觸れしめざる樣にすべし、然る後之を冷室に移し少しく其蓋を開き置き、菓房の全く冷ゆるを俟ち其蓋を密封すれば、翌年の春期まで貯ふることを得べし、

菓物の貯藏法

上等の菓物を貯ふるには、土燒或は磁器粗製なる壺に淸潔にして乾きたる砂を敷き、之に菓物を列らべ又其上に砂を入れ此の如く幾重にも列らべ、後蓋を爲し其蓋の周圍はパテ、又は硫酸石灰の類にて密封すべし、斯くして後入用の時に至り六七日間以前に取り出し濕氣なき處に置く時は大に佳味を增すものなり。又一法は淸水五合三四勺中に三十四匁乃至五十一匁許の砂糖と三厘四毛乃至五厘二毛許の水揚酸とを混和し、其内に新鮮の菓物を漬け上部を厚き紙等にて覆ひ密封して貯

へ置くときは久しきを經るも腐敗することなきなり。但し之を行ふに注意すべきは、菓物の傷なき者を精密に撰ぶこと大切なり。

根菜の貯藏法

根菜を貯藏するにあまり水分多きものは腐敗し易すければ貯藏に適せず、根菜貯藏法はまず傷なきものを精密に撰び、桶或は箱に砂の清潔にしてよく乾きたるものを敷き、其上に根菜を列らべ、亦其上に砂を入れ斯の如く段々に積重ぬべし、斯くして空氣の入らざる樣密封し置かば凡一ヶ年間は貯ふことを得べし。

梨及び林檎の蜜漬法

林檎の半熟せしものを採りて、疵なきものを撰び、悉く皮を剝ぎて姑く清水に浸し置き、菓中の甘酸の液分稍や脱したる後ち取り上げて水氣を乾し、然る後ち七日間程蜜の中に浸し置きて、別に壜或は磁壺に精蜜を入れ、其中に菓物の能く蜜の滲入したるものを納て、其口を密封し暗處に置く、斯くして月を經て食すれば其味頗る佳なり、但し蜜は太白を佳とする也。

田家のこよみ

畜耡子編

○園藝法

尙ほ是より進んで接穗に付要する注意を述ぶべし、

(一)接合に注意すべきは、砧木より接穗に向て昇流する所の津液に毫も妨げなき樣に嫁接すべきなり、故に接穗及び砧木を切斷するときは薄扁なる利刀を以て其切面を平滑にし、接面をして相密接せしむるを以て堅要とす。又接穗より砧木に向て類化津液の流下するは、樹皮と木幹との間に於てすれば毫も其交通を妨げざる樣に注意すべし、

(二)縛布及び嫁接蠟を施すに當り注意すべきは、接目に雨露の滲入するを防ぎ、又接目より水氣の發散し或は津液の漏出するを止め、猶且接穗をして砧木に密着せしめんが爲めに布を以て纒縛し、其上に嫁接蠟或は嫁接粘土を塗るべし、亦は布切れに嫁接蠟を塗りて接目を纒縛するも可なり、布の代用として用ゆるに、柳皮の水に浸して外皮を去りたるもの、或は玉蜀黍の穀皮の内部又は藁の適宜に打ち柔げ一夜水に浸したるものを用ゆべし、然れども柳皮亦は麻等を用ゆるときは腐敗するの遲きを以て苗木生長するに從て樹木に切れ込むことあれば、藁、布を用ゆるを可とす、就中藁は其價廉なれば最とも農家の實用に適當なりとす、

(三)砧木の萠芽除去の注意は、砧木より新芽を生ずるときは多量の養液を吸奪し、接穗をして衰弱ならしむれば砧木より發生する所の萠芽は務めて除去するを可とす、然れども其一部分は養液を誘引し接穗に向て促がさしむるが爲めに保存するを緊要なり、因て嫁接後接穗の生長を始むるを見ば、其の砧木の下部に保存せし萠芽を怠らず摘去し、又漸次上部に發生したる萠芽は接穗に接近の部分は其接穗の五寸乃至八寸位に生長するに至らざれば決して除去す可らず、

(四)接穗の凋衰を防がんが爲には、其尖端の截口には嫁接蠟を塗抹すべし、且亦稀有珍奇なる總て貴重の果木を晩春に嫁接せしめんとすれば、洋紙、竹皮、又は嫁接蠟の塗りたる木綿を以て接穗を纒包すべし、然らざれば衰枯せしむることあるべし、

理學

燐火（其三）

けい子

流星

流星を燐火性物の話しの中に加へ候は元々宜しきを得たる事にはおはさず候へども昨夜光り物のお話しよりツイ口がすべり其事までもお耳に觸れ候へば物の序でに其事までも爰にかいしたゝめ申候

流星は古來天文學の好材料として研究いたされたるものに候へども其由來今に詳らかならず古説に據れば我大陽系統中の大遊星、其遊星は火星と木星との間にありしものが破壞して幾多の小遊星となり其破片流星と變じて我地球近く飛び來るものなり其證據には我大陽系統に屬する八遊星は大概整然として大陽の周圍を運行し其距離の割合相等しきにも拘はらず獨火木兩星の距離のみ著しく隔り居り且其間に無數の小遊星運行せる故是は必ず素一大遊星なりしものが破壞して斯く小遊星となりしに相違なく隨て流星の如きも其一小破片ならんと申す事に候へども近時の學者は又説を異にし彗星の破壞せしものならんと推測いたし候其故は彗星の軌道は種々の曲線をなし或は大陽に接近し又は之に遠ざかり其大陽に近付く時は大陽の引力にて強く吸引いたされ候より元來核即ち實質の固たからざるが上に他の八遊星よりも其躰の小なる彗星のことゝて此引力に堪へ兼て遂に大小不同の小星に分離致すにて候其事實を確かめ候には先づ彗星の大陽に向つて進行する所を觀測し次に其大陽近傍を通過して歸り來るところを觀測いたし候事肝要に御座候箇樣にいたし候得ば其分裂いたし候や否やを計り得る譯に候處此觀測にて彗星の數箇に分れしを見たる例しは珍らしからぬとの由に候斯く分裂したるものゝ大なるは尙彗星として認められ候へども其小破片は不規則に飛行し或は大陽に接近して其周邊を圍み或は遠距離に飛散して宇宙間に迷行いたし其中の我地球に近づくもの前の如く流星となり隕石となると申すとにおはし候此隕石の墜落いたし候

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

候折は其速力の極めて迅速なるより宛がら小雷の如き響きいたし地を擊つて地中に穿ち入り候去れば地上にて隕石を見出し候事は無之よし其質は重に鐵にしてニッケルを混へ時々橄欖石等の石類を含むことあり此隕石に依り天體即ち星の實質を親しく分析いたされ候ゆゑ隕石は天文學者の唯一の確證物として貴重いたされ候偖これを發見いたし候には前に申す如く地面にあるは稀れに候へば地中より堀出すが多く候地中より堀出したる時は大抵其表面酸化いたし普通の酸化鐵鑛と同一のやうに見え候得共之に硝酸を注ぎ候得ば隕石は三角形狀の線を現はし候ゆゑ是にて其酸化鐵鑛ならさるとを見分け候由に承り候

御返事は先づ此位にて留め偖今日は空も晴れ行き夜は殊更に涼しからんとぞんせられ候へば弊樓にて例の音樂の稽古にても致したく御差支なくば暮方より御出浮被遊度祈上候

艸々しかく

月　日　　　としこ

しづ子樣

雜錄

安息日學校の說

左の一篇は、女子夏季學校に於て、デョー女史が演說せられしものゝ骨子なり。議論精密、着想實益にみち、眞さに是れ近時の名論たり。こゝに掲げて、路に當る人々の參考に供せんとす。

（1）。日曜學校の必要

甲。小兒は最も事物を感得し易きと—故に日用學校事業は最大なる勢力を有す

乙。幼時に感得せしとは最も長く記臆に存す

丙。小兒は多く閑暇を有す—故に日曜學校事業は最も廣き作場を有す

丁。靈性上の教誨は小兒に最も要用なると—日曜學校事業は最も高尙なる事業なり

生徒を多く得んと欲せば成る可く小兒の嗜好を滿足せしむ可きとを爲し以て其注意を引く可し聖書の眞理は唯之を理解な

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

し得る樣に敎へさへすれば小兒は最も之を喜ぶものなり

（2）。青年男女は最も適したる日曜學校敎員と成ることを得、

甲。小兒は老人よりも青年の敎師を好む｜小兒の理想は大抵己よりも僅か數年位ひ年長の者を撰ぶ

乙。青年は小兒の心狀を察し之に同情同感を表はすこと老人よりも厚し｜青年は己が幼時の思想感情信仰等を記臆なす故に

（3）。善良なる敎師となるに必要なること

甲。敎授す可き眞理　唯に其眞理を知識として知るのみならず心情に之を信ずるを要す（然れども神は其聖言を祝し給ふ故に心情の信仰なく知識のみにして語るも何も爲さゞるよりは勝る）

乙。面白く感ずることと熱心

丙。黽勉と準備　何事にても若し其事業を進歩せしめ得可きことあらば一も殘すことなく之を爲し怠慢と「出來ない」その遁辭をば拒絕す可し

丁。我等は失敗により學ぶこと多し

（4）。日曜學校を敎授する準備とは

甲。生徒と親密になること　機ある每に成る可く生徒一己一己に話を爲し以て其思想感情等を觀察す可し

乙。敎へんとする眞理を自ら先づ委しく研究することと而して其最も大切にして且つ理解し易き點を撰ぶこと

丙。敎へんとする眞理を生徒の需要に最も適する樣組み立て方に注意す可きこと｜習ひ得しことを生徒が實際に應用し得る樣に敎ゆ可し

（5）。敎授法

甲。簡易にすべしされど鄭重なれ

乙。開發的問答法を用ゆ可し｜生徒の答へ得べきことを決して語り聞かす可からず、問答により既に知れることと新たに敎へられたる眞理を接續せしむ可し

丙。新たに敎ゆ可き重なる眞理は一時に必ず一つより多かる可からず其要點二三ヶ條（說明の爲めとは云へ決して餘り多くの要點をあぐ可からず）を說き明し以て其重なる眞理を明白ならしむ可し

丁。復習を丁寧にす可し｜常に生徒をして習ひしことを答へしむべし若し其答案中誤あらば之を正誤す可し而して

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

凡て答へし後能く之を概括接續し得る樣にすべし

戊。記臆せしむるときは必す其道理を辨へしむ可し—其意味を解せざるものを決して諳記せしむ可からす

(4)。補助法

甲。活潑に唱歌するヿ—讃美歌を掛圖或は黒板に書き寫つす可し成る可く動作唱歌を用ゆ可し

乙。語るときは成る可く高音を用ゐ又時々は一己人に語るべし

丙。引例を用ゆ可し—人事或は天然物より

丁。實物を用ゆ可し—生徒の熟知せる物品を用ゆるを最上とす

引例中の談話は簡明にして勢ひ強く且つ能く其眞理を説明し得るものを用ゆ可し。然れとも決して其話に心を奪はれ却て日課の大意を失はしめさる樣注意す可し

(7)。黒板の最も要用なるヿ

甲。得るに容易なり

乙。目撃せしヿは聞きしよりも長く記臆し得らる

(8)。黒板の用法

甲。聖書の句節及ひ日課の要點は之を黒板に書す可し—黒板に書するときは成る可く書き方に工風して生徒の注意を引く樣にす可し

乙。圖書を用ゆ可し—生徒を面白からしめ且つ能く其日課の主意に適する者を撰ぶべし然れども簡易なるを要す

丙。色付きたる「チョウーク」を手製するヿ容易なり

丁。黒板に字或は畫を書くときは生徒に語りつゝ書く可し

戊。生徒の注意を引かん爲めに其好奇心を起す可し

巳。諳記せしむ可き句節は始めに黒板に書きて生徒に讀ましめ後之をかくして諳誦せしむ可し

(1)。實物教授

甲。小兒か最も好むものを用ゆべし

乙。敎へんとする日課を能く説き明す物を用ゆ可し

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

小説

春風裡

トオストイ作
不知庵主人譯

其六(下の一)

頓て二ヶ月過ぎて、雪や嵐の冬となッた。で、セルギイ、シハイエロウ井チは矢張自分と一緒にゐたが、そろ〳〵自分には、生活方が餘り同じ調子で、良人にも自分にもトント珍らしい事がない様に思はれた。

實際何だか同じ道中を行きつ戻りつばかりしてゐる様な心地がして、良人は以前から見ると更に著るしく仕事に出精して、ドウモ自分には良人の仕向が自分を遮絶して悉く打解けてゐぬ様に考へられ、其毅然とし犯すべからざる嚴格が如何にも憂かッた。

ト云ッて良人に對する愛念が更に減へッたでもないが、以前と變らぬ度合で、唯一種の不思儀な安心出來ぬ感情に苦められてゐた。

ドウかして此心配を破る、、キッケ藥が欲しく何分此平らな生涯ではトテモ我が心盡しも出來ぬ故、なるべくは事が起ッて我が献身の實を現はしたかーッた。が、此無事な生涯を送るにどれだけ苦むだか知れぬほどで、どうにかして此辛さ加減を隠し元氣を作らうと一心になッた。

しかし良人はいつも變らず以前の通りに自分に氣を付けて呉れて、或る時暫らくの間都へ遊びに行かうと云出したが、自分は碌々聞かないで、生活の方法をも改めず、幸福の建物を更に傷けぬ様にと賴んだ。

と云ふも畢竟自分が幸福であるからで、あッたが、唯あまり無事すぎるので何か一ト仕事して自分が待ちかまへてゐる犠牲の時が來らぬを殘念に思ッた。

良人を愛する念は勿論深かッたが、何分良人を愛するといふだけでは不滿足で、何か特別な事から自分の貞實心を現はし又一ッには愈々實を盡して見たさが山々であッたけれど、全くまだ年若で、ある爲めか、心に思ふほどに行かなかつた。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

何故良人が都へ行くと云出したものか。若しコンナ事さへ云はなかつたら、或は自分が以前に良人を水臭いと、想像した事などは既に〳〵判然してツマラヌ妄想と考へ附たかも知れぬ。又都に行く事が若し良人の喜ぶ處なれば兎もかくも田舍仕居の其嗜好に適したは勿論明了なる事實であるから、唯自分の爲に――自分を嬉しがらせんが爲に良人が都に出掛けるといふは頗る不服である。

時は駒の如く過ぎ、雪は深く積りて屋外に堆かく、我が一家は相變らず同じ具合に少しも變化せずに暮し、唯微かに愉快な陽氣な聲を聞く樣な心地がして、此全く器械の運動に等しき規則的生涯は日に益々堅くして、朝は陽氣で晝は叮嚀で夜は懇ろであつた。

斯る躰であるから何も不平を鳴らす譯もないのに、何分自分が面白からぬ考に落ちたは、良人の仕向や生活の仕方に不平といふよりは、自分の心に潜る獻身的の愛念を形として現す事が出來ぬからで。出來ないでも差支はない樣なものの、夫では何だか妻としての義務が盡し足りない樣な心持がするからである。

或る朝、セルギイ、ミハイエロウヰチは農事の撿分から歸ると、いつもに似氣なく不興な躰で、自分は心配して容子を索ねると、『なに、ツマラヌ事ッた』と一ト口に答へて、何にも云はず、其後之は小役人と議論した結果であるといふ事が知れたが、自分は其事自身が氣になるよりは何故セルギイが秘してゐるのか何分之が呑込めぬ。

或は自分を子供だと思つて、何事も子供あつかひにして、肝心要な用向は少しも自分に語らずにゐるに相違ない。夫婦は異躰同心で、喜憂苦樂を共にするといふは勿論誰も知ッた事で、縱令自分が子供であつても此の位な理の分らぬ事はない。然るに良人のセルギイは自分を喜こばせる事ばかり話して、更に憂苦を分けて吳れぬは有がたい樣で却つて怨めしい事である。なンぼ子供だからとて嬉しがらしてばかりゐて奧底の心配を打明して吳れぬは、自分を妻としての價値がない者と思ふに違ひないと考へて中々殘念でならなかッた。

であるから、自分はセルギイに係はず、食事が濟むと急いで音樂室に行き、此日の朝餐に招待したマリヤ、ミニッチナを呼んでタワイない浮世咄を初めたが、之もさッぱり自分の

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

元氣を直すに足ないで、上邊は面白くお饒舌をしてゐたが、內心は何となく面白からず更に氣が引立たぬ。

セルギイ、ミハイエロウ井チも後から此部屋に來たので、自分はワザと面白さうに聲高にさんざ饒舌たて丶フザケ散らし、是までになくハシヤいで殆ど「ヒステリカル」に笑ッてマリヤ、ミニッチナを太く驚かした。しかじセルギイが間もなく部屋を出て仕舞と再舊の通り沈み返ッて、戶が閉る音と共に呀かへッた自分の氣色は何處へやら消え失てしまひ、マリヤが此突然の變化に喫驚して何事なるかと心配して索たのに返事もせず、身躰を椅子に埋たま丶今にも泣出したくなッた。

『どう思ッてらッしやるだらう。乾度下らない、モウ〳〵一層タワイのない子供だと思ッてらッしやるんだよ。さう、さうにちがひない、ダカラ口惜ひワ』

と考へて今にも堤を破らむとする涙を無理に押へて良人の部屋に行ッた。

寄書

帶と紐につきての注意

馨泉女

諸國の女服を、品評する人云ふ、西洋諸國に行はる丶女服は、起居に便利にして、動作を活潑にし、風に逢ふも、裳を飜へし、脛を現はすが如き、不躰裁なく、全衣身躰の要部に密着して、隙漏る風も透すを許さず、從て邪風に冒さる丶憂少なし、されど服裝の一具コーセットの如き附屬品は、痛く胸腹等を厭迫して、胸骨を彎曲せしめ、恐る可き種々の病を、發するに至らしむ、支那の女服は、衛生上の缺點少なしと雖ども、穿靴狹小に過ぎ、失火地震等の災難に逢ふも、自ら步行して、逃る丶こと能はず、哭泣して、死地に坐せざるを得ざるが如き、何たることぞ、實に言語に斷ゆと云ふべし、我國の衣服は、衣と裳とを合したるものなれば、之を裁つも、縫ふも、いと單簡にして、寬濶長袖、雅致に乏しからず、之を着るも、身躰を厭迫することなし、されど女服は着るに當り、意外に多く紐を要す。人々の知る如く、女子の常衣を着るに

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

當り、先づ第一に用ひるものは、腰帶なり、此腰帶を以て、衣服を腰部に纒ひつけ、ひきづらぬやうに爲す、故にいづれも此紐を強く引き結び、知らず〳〵皮肉に食ひ込ましむ、婦人が衣服を脱せしとき、腰の邊に此紐の痕を止めぬものは、稀なるを以て知るべし、次に用ひるものは下じめなり、此紐は胸腹の界より、腹腔の肝胃二臟を藏むる部分に、一面に纒ひ着くる紐なり、此紐を強くしむれば、身躰細く見ゆ、故に專心裝ひに凝る人は、衛生上の得失を顧みず、往々手強く之を引きしめ、纒ふことあり、次に用ひるものは、帶、帶上げ、帶どめ、の三種なり、故に都合五本の紐を要す、此中にて帶どめは、唯帶のそら解けを、防く爲めに用ひるものにして、利害を身躰に及ぼすものにあらずと雖ども、他の四種は其用方宜しきを得ざれば、悉く身躰を害す、故に之を調へ、或は用ひるには、よく注意せざるべからず、帶は可成輕きものを、撰み用ひて緩く結び、腰帶は成る丈け太きものを用ひて、皮肉に食ひ込ぬやうになし、くけ紐なれば、其巾一寸五分を度とすべし、此紐のしめ方は殊に困難に思はる、強くしむれば、身躰を害し、緩くしむれば、衣服づる〳〵と下り來りて、用を爲さず、何とか一工風致さねばならぬものなり、下じめは緩く纒ふも、差支へなきものなれば、太く仕立て、緩く纒ひ、身躰の屈伸を、防げぬやう注意すべし、特に帶上げは、胸部心臟の下房に、當る所へしめるものなれば、一入意を用ひて結ぶべし、以上陳ぶる所の五種は、上着の上に纒ふものなりと雖ども、長襦袢、胴着を着るに當り、更に多くの紐を用ひることあり、實に夥だしき紐數と云ふ可し、然るに我國の女服を着くるの巧拙は、首に此紐を用ひる、巧拙に由る、又我國女服の衛生上の利害も、甚だしく此紐に關係す、故に一條の紐なりとて、輕々しく之を見過ごすこと能はざるなり。

○白瓜の青きものを其儘翌年迄貯ふる法

上總の國一女

赤土一斗をよく打碎き、篩にて振ひ、其中に食鹽六升五合を加へて尙丁寧に混和して、白瓜を二ツに割り其中のものを取り去り能く清潔にして、右の土にて漬け置くときは翌年に至るまで其色を變ずることなし。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

女報

淡海子編

●造花の御注文　宮内省にては是迄　皇后陛下の御居間抔に、四季折々の花卉を挿みて御裝飾の一部に加へられしも、夏季の折柄自然鉢水の腐敗する恐れもあるべきかさて、今般造花を以て之に代ゆるとさなし此程　陛下よりの御意にて紺菊なでしこ、藤袴、薔薇、芙蓉、桔梗、百合等の造花を一ツ橋外なる共立女子職業學校に御注文相成たるよし、

●兩女王殿下の御參内　常宮、周宮兩内親王殿下は再去る十日日光より御歸京あらせられしを以て、十二日午前九時頃御參内　兩陛下へ御對顔の上同十時過き還御あらせられたり

●產婆志願者　今回東京府產婆開業試驗志願書を呈出したる人數は本免狀四十四人、假免狀廿一人

●下田女史の洋行　先頃華族女學校學監より轉じて、同校教授に任ぜられたる、下田歌子女史は今度在官の儘洋行を許され其の費用として六千圓下賜せられ、去る十日横濱解纜の佛國郵船メルボルン號にて渡航の途に上り、先づ佛國に渡り、其れより歐洲諸帝王國を巡りて學事取調の傍、各國内廷の模樣を視察して他日の參考に供するよし、同行は堀江義子孃にて孃は下田女史一年にして下田女史歸朝の後尙ほ二年程留學するさ云ふ、

●女子高等師範學校長後任に就て　細川女子高等師範學校長今般文事秘書官長に轉任したるに付其後任には、村岡音樂學校長任命せらるゝ事に內定し、不日音樂學校廢止に至る迄高嶺高等師範學校長に心得を命ぜらるべしさ云ふ、

●華族女學校　曩に同校幹事同教授三名一時に職を免ぜらる、其事職權の爭ひより竟に私鬪を爲すに至りたるに原因すさ傳ふ、此頃又西村校長改革を行はんさして校內議論囂々たりさ、改革せんさする者非耶、囂々たる者非耶、我得て之を知らず、(十二日每日)

●兼任高等女學校助教諭　栃木縣尋常中學校助教諭糸井留三郎氏は、高等女學校助教諭兼任の事を其筋より諮問せしに、差支なき旨同校長より答申したりさいふ、

●ペルシヤ劇場興行の差止　米國シカゴ博覽會の婦人館事務局員の告訴に依り、去る八月五日を以てミッドウエー、プレーサンスに於けるペルシヤ土人娘踊は風俗を害する者さ認定せられ、事務總裁デーヴイス氏は興行差止を命じたり、其理由は土人娘は締りなき服を纒ひ、自由に踊り廻り醜躰を顯はすさ云ふに在り、然るに同地一、二の新聞は說を爲して曰く「婦人館事務局員等が自國の醜を棚に上げ、獨り彼國女子の醜躰を甚々さ誹難する如き餘り感服せざるなり、處變はり風俗變はる、ペルシヤ娘の締りなき服裝にて踊り廻はるの狀、米國に於ける或部分の者には醜躰を呈すさ雖ども、自ら文明の士民を以て傲る米國女子の劇場に於ける彼の高蹶踊、蹉踊、蛇卷踊、スプリット踊の如き醜躰を顯はすに至りては前者に比して甲乙なかるべしさ、每日新聞に見えたり

●名古屋婦人會　名古屋婦人會は愈去月十六日發會式を南久屋町美以教會堂に於て執行せり、司會者は山鹿夫人にて、聖書朗讀は川並通子、祈禱吉川サダ子、開會の趣意井手夫人、規則書朗讀秋川豐子なり、夫より山鹿旗之進氏は米國に於ける婦人慈善會、婦人矯風會等の情況に就き一場の演說をなし終りて、來賓一同に茶菓を饗し暫時休憩の後、直に禁酒幻燈會を開き來遊中なりし美山貫一氏開會の要旨并に川口幻燈の由來、及び故ウエスト孃に就ての所感を述べられ、次に福井文三氏は幻燈によりて酒の害に付き懇切に說明せられたり、來會者無慮六百名非常の盛會なりしさ云ふ、

●深川倉庫在米高　東京米商會所に於て調査せる、本年八月上半月倉庫在米高並に輸入出高は左表の如し、其要概を擧ぐれば、輸入總計五万九千二百三俵、輸出同十一万七千六百俵にして、每日在米高平均四十六万二千三百十七俵なり、此平均を前月上半月に比すれば十一万二千五百五十三俵を減ぜり、(九月七日官報)

●神戶の藝妓問題　同地臨時市會にて市內の藝妓を市の片端に放逐し區畫を定めて居住せしむべしさの建議顯はれ、料理屋揚屋連中には其否決する樣破落戶及壯士連を雇入れ、市會議員の門を叩き强迫を始めし者あれど此問題は通過すべき色あり、玆に又藝妓放逐の上は福原町遊廓をも同樣片隅へ移轉せしめんさ云ふ者あり、

●水島簇次郞氏　金澤女學校長なる同氏は、去る三十一日越中富山に赴き同縣下教育の現況並に女子敎育の現況を視察し居れるが、去る五日歸澤せりさいふ、但し或は富山に女學校を設立せんが爲めに赴きたるなりさも傳へり、

●婦人の髮　暑氣炎々の折柄は勿論每月一回は必らず髮の毛を洗ふべし、强きあく又は「ソーダ」の類は有害なれば柔かき石鹼さ微溫湯を以てするか、又は毛の爲にもなり且よく落るは御承知の通り「ウドン粉」或は「ソバ粉」さす、之等は最も健康によろしさす、日本の女の髮は多量の油を付くるが故に、自然其洗ひ方を怠り安ければ實に不健康の極にぞある、久しく洗はざる時は頭部の蒸發を防ぎ爲めに頭痛に惱まされ、害の何たるを知らず「ドウも頭が重くていけません」頭痛は私くしの持病である」一括さして怪まざるが如きは、不攝生が人に顯はすものなり(但し腦病は別もの)年未だ若きに髮も早く拔け落ち時ならぬ秋風落日のすがたさなるは、亦此等の原因も關かりて力あるものなれば細事さて輕る〲見なすべからざるは髮の毛の洗滌にこそ、(大日本婦人衛生會)

●桑港に於ける醜業婦　桑港に於ける日本醜業婦が是迄彼我の間に害毒を流しつゝある事は世人の知悉する處なるが、彼等は本年の末に於て同地に開かんさする

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

大博覽會を目的とし盛んに此等醜業婦の輸入を試みんとするものあるより、在留本邦人は去月以來大に奮起して彼等の頭上に一大打擊を加へんとて目下議論嘗々たり同地に於て刊行する二個の日本字新聞紙、金門日報桑港新報紙上の如きは此の議論を以て大部分を塡充し廣島縣人の如きは特に一大相談會を開きて以て、本國より流れ來りたる多數醜業婦をして歸國せしめんとの運動を始め廢娼期成同盟會なるものを組織し、其第一回を去月十九日の夜に開きたりと、

●刺繡業の利益　近來海外に輸出する刺繡は、全國至る處に盛んに行はれ、都下のみにても一年二百萬圓以上の輸出額に達し、又職工の數殆んど三千名の多きに達せしが、其內過半數は婦女子にして所謂手內職と稱へて各自家內にて營む者多く爲に其業はイト容易きものにして短日月の修練をなせば直に出來得る樣考へ、現に府下にても一週間習へば金六圓以上の收額ありなど云ひしより、年頃の婦女子にはコハ甘い金儲けなりと、我も〳〵と是に從事せしが仲々其樣に容易く習ひ得る可きものにあらず、爲に品質を落して大に海外の勢價を騷くしたるの恐れあり、實業者の云ふ處に依れば男女とも一人前の職工になり、一日四十錢以上の賃銀を得るには、七年間の修練を要すと云ふ此種の業は手工に得手なる日本人には最も適當の職業にして、向來海外へ續々輸出增加の見込あれば何とかして粗製濫造の弊を防がんと、過般同組合を新設するに至れるなりと、而して生絲を其儘海外に輸出するものを、刺繡して輸出するときは、實に十五圓の生絲は百圓の價に販賣し得べし、左れば殆んど八倍の利益ありて、其手間賃なるものは悉く本邦職工の手に落るなれば、其國益をなす實に僅少にあらざるなりと云ふ、(中央)

●結婚媒妁の概況　全國結婚媒妁所に於て取扱ひたる媒妁件數は、年々增加の模樣にて本年一月より八月迄に取扱ひたる數は、嫁聟養子貰方五百八十人、同實方四百六十人にして、契約濟の分は百五十組なるが、從來は殆んど士族の申込のみなりしに漸次平民の申込增加し、現時は貰方三百人實方二百五十二人の多きに及びたり、而して世間不景氣の時にに婦女の貰方少なく景氣よき時には貰方多くして困難を感ずる有樣なり、總じて聟養子の申込は何時も多くして、實方は少なく殆んど十分の一にも及ばざる程なり

●有名なる露西亞の婦人　デノヴヰコッフ夫人は、近々の中に英國を出立して合衆國へ行く可し、同夫人は露西亞帝に敵する露國陰謀黨の巨魁として數年の間、倫敦に名を轟かせし女丈夫にして不思議なるはグラッドストーン氏の友人なり、夫人が此度び合衆國に渡る主意は何なるやと外交社會は深く注意せり、

●墺地利皇后の寶玉　墺國皇后が所有し給ふ幾多の寶玉の價は、四百萬グルデンより五百萬グルデンなり、(一グルデンは凡そ三十六仙)右の中には、故皇太子ルードルフ降誕の後に、帝より皇后へ贈り給ひし光彩燦爛たる眞珠の御首輪あり、其價三十萬グルデンなり、或る維納の新聞紙の報ずる所に據れば、歐洲諸國帝室の中にて所有の寶玉の價に就き、墺國皇后に匹敵する者は露西亞の皇后あるのみ、墺皇后には屢々其寶玉を御姬君達へ分ち與へらるゝと雖も、尙ほ歐洲第一の金高の寶玉を所持し居らるゝとかや、右の所有の寶玉は何時にても好ませ給ふとき勝手に之を着けさせらる、然れども墺國皇室が其昔瑞西のハップスボルヒに居りし時より傳へたる寶玉は、皇室に屬し居るが故に、皇后の之を飾り給ふ時には其度每に其趣を番人の帳面に記すなりとぞ、

●英國女皇　ヴヰクトーリアはツイゾ下々の者へ荒き言葉を掛けたる等のことなし左れども其召使ひ共は御家內の仕事が時計の廻る樣にキチン〳〵と運ばざれば、陛下が直に其原因を知り給ふことを承知せり、陛下は彼等を呼ぶに苗字を云はず名前を以てするを常とし給へり是れ彼等をして陛下を畏れて申上げることも申上げぬなどのことなからしめんとの聖慮なりとぞ、又陛下は常に新參の者の姓名を問ひ給ひて、御家內の召使ひは山の如くあるにも拘らず、決して之を忘れ給ひたることなし、陛下は深切なる御主人にして、召使ひの者の中に誰とて之を愛し慕はぬ者とてはなく誠や英國女皇ヴヰクトーリアは先づ手本となる可き一家の主婦にして、又盛德の君主たるものと云ふ可し、何やらの英國の雜誌に陛下が紡車を廻し居る所の畵を揭げたることあり、陛下が質樸にして奧ゆかしき御有樣を寫し出して盡せり、英國臣民の深く女皇を愛慕するも亦宜ならずや、英國女皇ヴヰクトーリアは綺羅を飾るが故に貴きに非ず雲の上の高きに居りて、尙ほ賤が伏家に紡る老媼の辛苦を察し給ふが故に貴きなり、(以上三件時事)

●アイヌの病院　北海禁酒會が卒先して同種族矯風に熱心し居るとは、其矯風部を組織し居るともて知れ居るが、尙ほ其赤貧にして醫療に堪えざるものを救はん爲めに、同病室を設けて施藥したる成蹟は左表の如し

從一月至六月アイヌ病室患者出入總計

一入院者　三十九人　內譯男二十二人　女十七人
平癒者　二十三人　中途退室　五人
但農業繁忙の爲め
死亡者　一人
但嘗て同人札幌病院に在しも醫師の命を用ひず病室に引移り遂に死に至る
現在入室者　十人　但六月末現在員

因に曰くアイヌは元內地の各所に居住したる時人口數多ありしが、後蝦夷地即ち北海に退きてより文化元年の頃の調べに據れば二萬二千二百七十一人あり、而して明治二十二年に至りては僅かに一萬六千七百四十五人に減じたり。最近八ヶ年間の統計を檢するに平均每年五十八人ヅヽを減少す此割合を以て推すときは凡二百八十八年の後に至りて、全道アイヌの子遺なきを見るに至るべし、其減少の原因昔は戰爭疾疫の爲めに斃れし者多かりし、今其大半はアルコールの過飲と尙醫藥の備へなきとによりて自殺するものと云はざるを得ず(基督教新聞)

●慈惠女學院主の拘引　大坂瓦町二丁目慈惠院內に寄留する、同院主岡義男高津村田中喜藤次の兩人は、今回其筋へ拘引せられたり、今其嫌疑の次第を聞くに、右兩人の發起にて慈惠女學院原資積立講と稱し一人に付き一箇月に金壹圓を出させ、四百人を一組となし、一箇月一回抽籤して當籤者へ百圓を附與するといふ方法なるが、已に其加入者昨今三十七組の多きに及びしに、其一組四百人の內三百四五十人は眞實の加入者なれど、他は假に設けたる內輪の者にて、此者に當籤する樣に仕組み、時々開會して貪慾者を瞞着したりとの嫌疑なるよし、(大坂每日)

●居留地の淫賣　去三日午後九時四十分頃橫濱居留地百九十一番館、淸國人アッ

井方に於て九名の淫賣婦が、印度人を相手に淫賣の現行を認められ捕縛されしが、アワ井の姿田澤マス（廿七）なる者は有名の壽婦にて、常に淫賣の媒介を營業とし世間に對し殆んど之を恥とせざる醜物なるが、同日も例に依り數多の日本淫賣婦を同館に集め、船乘印度人に一人五十錢にて淫賣の約束を爲し、遂に現行に及びし處を警官は領事館の承諾を得、現場に踏込み九名共悉逮捕せし由、（橫濱貿易新聞）

●婦人より出せる傳道寄附額　或る印度人の語に偶像數を倒すものは學校にあらず、書籍にあらず、又た說教にあらず、唯だ婦人と醫者となりと云へり、此に昨年の傳道のため婦人より寄附したる金額の如何に大なるやを見るは甚だ與ある事となるべし、ペインブリッヂ夫人の調査せる所に依れば左の如し

プレスビテリアン	三〇九、八一八弗
メソデスト	二六五、三四二
コングレゲーションナリスト	二二九、七〇一
バプチスト	一五五、五五二
ユニオン、ミショナリー、ソサイチー	五一、二二二
エピスコパル	三五、四八四
レフオームド、チヤーチ	二九、六三五
合計	一、〇七六、七五四

（福音新報）

●婦女の鑑　長野縣上水內郡北小川村大田幸吉の妻女伊藤きく女は、貞性悌順幸吉方に緣付て後は能く夫、及義姉に仕へ、殊に近年夫老衰し義姉又疾病に罹るに當り、老年の身を以て、都寒暑雨を厭はず勞役に服して家計を營み、看護に力を盡すなど多年一日の如く、其篤行洵に奇特なりとて今度同縣知事より金二圓を賞賜されたり、

●細川潤次郞氏　去八日女子高等師範學校長細川潤次郞氏は文事秘書官長に轉任したり、

●健脚婦人　米國テキザス州ガルベストンに住むルシル、ロッドニーと云へる婦人は其の夫ジー、ピー、ロッドニー及びダブリュー、ホットアーなるものと共に二千五百哩を徒步してシカゴに達せんとの賭を爲し去る五月十六日鄕里を發し百有餘日間一日平均二十三哩づゝ步み、遂に去月一日シカゴに到着し、其の賞として五千弗を得たり同婦人は此の長程旅行八足の靴を穿き潰したりと云ふ、又桑港のフヰリップ孃は、他の一婦人と共に同港よりシカゴまで徒步するの賭を爲し、三ケ月の豫定にて去月二十一日出發したりと云ふ、

●裁縫科設置の影響　裁縫科を設置したりとて必ずしも女子敎育を盛にならしむるべしと思はれざるが、現に角女子の就學を增す一策に相違なきなり、熊本市尋常小學校にては四年生に此科を加へたるに未だ一年を經ざるも、大に見るべきものあるを以て更に第三年生にも課せんかとの內議ある由、（大日本教育）

●居留地の風紀矯正　橫濱居留地警察署にては今度大に探偵を增して同處に於ける淫賣婦を狩らんとする由、

●西洋婦人の溺を救ふ　函館寶町卅五番地人力車挽伊藤勇造（三十一）相生町十五番地仝業吉崎藤七（四十三）森村字柳原乘合馬車馭者水野万吉（二十三）の三名は去廿九日午前十一時頃寶町裏海水浴場の近傍に至ると波打際にて西洋婦人三名が手を揚げて招く樣なるにぞ是れは訝だ何でも至急な事でも出來たに違ひないからと、三人共々近寄れは婦人共は沖合を指し何事なか言ふより、見渡せは成程遙か沖に一人の婦人らしきが溺れて、浮つ沈みつする光景に、三人直に衣を脫き捨て波を切つて沖に泳ぎつゝ、今は早や溺れ死んとする婦人を救上げしが幸ひにして無事なりければ、居合はせたる西洋婦人は數回び禮を述べ、元町遺愛學校へ午後五時に御出で下されたしと言ひ置き其場は別れたるが、定めし此禮に酒價でも吳れることかと同時刻遺愛女學校へ赴けば、出て來りて救はれて一命を拾ひたるは有難しと厚つく禮を述べ、是れは餘り些少なれども寸志までに參らすれば御受納下されたしと各々に五十錢宛を與えりと（函館新聞）

●市內出產死亡屆出數　市內五區に於ける本年七月四日より同十日の一週間內出產死亡數は。出產男二百拾九人、女二百拾六人、合計四百三十五人、外に死胎出產四十三人。死亡は男二百六十八人、女二百七十九人、合計五百四十七人なり、

●プラスモジヤムの存養費　北里博士が恙虫の病原と認むるプラスモジヤムは二頭の猿猴に接種して頃日氏の硏究所に持ち歸りたるに、猿猴は何れも恙虫病に似たる症候を呈し、硏究上頗る有益なるもの都下にて、猿猴一頭は五圓內外に値り、又プラスモジヤム養分缺乏して復た其の存養の用に耐えず故にプラスモジヤムを長く存養せんには半ケ月に猿猴一頭即ち一ケ月十圓プラスモジヤム存養費を要する由、日新の學術は其功德や大なり其代價獨り廉なるを得ざるべし、

●藝妓取押巡査の免職に就て　過日廣嶋福岡香川三縣の警部長が、山口縣下山口に會合したる當時宿屋にて各自藝妓と同衾し居たるを、同地の巡查澤村文海氏は取押へ、右の藝妓を警察署に拘引したるも同署にては故なく之を放免し、其後に至り村上署長、藤井部長は依願免職となり、澤村巡査は免職となれり、此處分は實に其當を得たるものにあらずとて、山口組合辯護士小河源一氏外二名は去る七日、原山口縣知事を問ひ大に論ずる處ありしと云ふ、（時事）

●山縣伯爵令夫人の逝去　山縣伯爵夫人の病容危篤なりけるが、藥石其効を奏せず、遂に去る十二日午前十時十五分を以て逝去したり、右主任醫士の手記したる病容の經過を掲ぐれば左の如し

山縣令夫人容體

明治廿四年二月肺患に罹られしが爾來本年二月に至る迄漸次輕快に向ふ本年二月來咳嗽咯痰發熱下痢等の症狀を現はし從て身體漸く衰弱を加ふるに至れり七月下旬更に腸結核を發し熱度弛張下痢頻回殊に便中血液を混ずること九日に及び爲めに身體頗ぶる衰弱せり八月初旬來右の症狀輕減し體力稍や回復に向ひしが本月二日に至り諸症頓に增進し加ふるに食思欠乏殊に七日以來殆んど絕食し又同時下痢其度を增し從て體力虛脫し十一日來殆んど人事を辨ぜざるに至れり十二日午前十時十五分煩悶苦痛の狀なく安靜に永眠せらる、（時事）

●料理法の良書　爾來購讀者よりしばしば料理法に關する良書を問ひ越されけるが、今回弊社にて取次致す、幾中惣菜の仕方は實際に適して至極適當の良書なりと信す、

日本評論

第五十五號（九月九日發兌）目次

◉日本評論

詩人菅原道眞

行く川……………………………………………………………戸川殘花

對月………………………………………………………………同　人

自然界の預言者

ツオルズウオルス（二）

◉雜錄

青年の名家

唯物的安心（働け、働け、働け）

夢示によりて一隊の移住民を窮厄に救ふ

文豪、文豪を評す

史談

◉新刊書藉及雜誌

カーライル○マコーレー○日本戰史關ケ原役○求安錄○ベルヂツト氏再び日本を論ず○史海○國民之友

定價一冊金六錢○六冊卅三錢○十二冊六十四錢

○府外は一冊に付郵税五厘を要す

發行所　東京麹町區三番町三十五番地　日本評論社

生徒募集

本月學期ノ始ニ際シ例ノ通リ校費秋費生入學ヲ許ス有志者ハ本月中ニ本校ヘ申込アルベシ

校則御望ノ向ハ郵券貳錢御送附ノ事

明治廿六年九月

横濱山手二百廿壹番

聖經女學校

皇后宮御覽

文部大臣子爵榎本武揚公題字

大學院醫學士三島通良先生編述

增補訂正第三版

[illegible]

正價五十錢

郵税六錢

親の巻　妊婦産婦の心得

子の巻　育兒法

右は我國無双完全無比なりとの好評を博したる日本子母衞生書なり、華族女學校醫科大家産科婦人小兒科病室並に群馬縣高等小學其他の諸學校に於て參考書として用ゐらる、文章は談話體總平假名付にして極めて理解し易し。婦人方への贈物として最最上の好品なり

東京下六番町

女學雜誌社

袖珍新約全書

（聖書館發兌）

定價

惣皮表紙金入頗美本字　十五錢

惣金巾表紙金字入美本　十錢

右弊店に於て最次仕候間地方の御方へは郵税四錢の所内二錢にて御送可申特に東京市內は御一報次第御屆可申上候間續々御注文被下度候

賣捌所

東京新橋出雲町一

警醒社書店

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

花の家胡蝶大人著

素人料理 **年中惣菜の仕方** 實價金廿五錢 郵稅金六 錢

此『年中惣菜の仕方』は、既に本紙三百五拾號に於て公評せられたる如く、文章も凡ならず、卷中の料理法極めて多くして、皆な實際に適し、最とも有益なるものと信ずれば、今回弊社に於て之を廣く取次販賣す、世の主婦たる人の必携すべき書なり、

近藤嘉三先生著

言語作法 **貴女の心得** 實價金拾四錢 郵稅金四 錢

本書の目次は、淑女の心得、友の心得、化粧の要訣、談話の心得、訪問の心得、賓客接遇の心得、室內粧飾法、和歌の書方、香道の心得、茶道の心得、新式和洋挿花法、家庭衞生法、其他數件、一々圖畫を以て平易に說明せしものにして貴女の友たるを得るものなり、

巖本善治君著

女學叢書 **木村鐙子小傳** 實價 金八錢 郵稅 金二錢

木村鐙子女史は我女子教育界の寒梅にして、女子が如何に堅信熱愛にして、若かも貞節賢德なる婦人たりし乎、請ふ此書を一讀其爲人を知り玉へ、

巖本善治君著

教育主義 **吾黨の女子教育** 實價 金八錢 郵稅 金二錢

此書は通篇、拾五章に分ち、紙數二百〇七頁、記述する處我國女子教育に關する編者が積年幾多の意見と、其主義を代言するものにして、殊に明治女學校の教育精神、期圖を知らんと欲する士女は本書に就き閲讀あらんことを、

巖本善治君講述

女子教育 **教育學講義** 實價 金八錢 郵稅 金貳錢

此書は君が、明治女學校高等科女生に口述せられたる講義中を要望者に頒たん爲めに廉價を以て發行す、

竹越竹代女史著

賢婦傳記 **婦人立志篇** 實價金貳拾錢 郵稅金貳錢

見よ婦人の地位の如何に制せられて、其達し得る程度を如何に限られて、而して其達し得る程度の制限なきを、此書は女子の讀物として甚だ有益なるものにして、頒く之を世間に紹介す、

船越鼎太郎君著

產婦小供 **攝生法** 實價金十錢 郵稅金二錢

此書は姙娠婦人適當なる攝生法を、平易、簡便に示したるものにして、產婦必讀の書なり、

橫山雅男君著

實跡統計 **婚姻論** 實價金拾六錢 郵稅金四 錢

此書は理論を以て是非を極論したる者に非ずして、著者は統計集誌に於て知名の人なり、專ら古今東西の比例統計を

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

採り以て、其國の寒暖生活文化の高低に因て、結婚に早晩あると、其實例照々乎として顯る我國男女の風習に付警嬌せしものなり、

久野久香君著

博愛慈善 **看護婦美談**

實價金廿五錢　郵稅金六錢

博愛なる婦人の多涙一生を捧げて看護婦となる、而して記述の事柄二百數十頁を以て成る、

蔦廼舍主人撰

修正百首 **修正小倉百首**

實價金四錢　郵稅金二錢

我國婦女の毎春弄牌小倉式紙など弄び之を暗記成誦す、所謂戀歌なるもの殆ど其半に居る、其甚だしきものに至りては猥褻汙穢に過ぎたり、撰者は烏保不爲在原業平小野小町一流の人物を深く慨して此撰を世に公にせられたるものなり、此撰は伊藤仁齋好詠の和歌にして、其集二百八十有餘集にして一の戀歌なし、仁齋是を　天皇に奉りたるものなりと云ふ。

小野鷟堂先生書

女子消息 **文のかきふり**

上下二册

實價金三拾六錢　郵稅金六錢

女子の書牘は、おのづから其かきぶり存するなると、近來茲に注意する人々稀にして、眞字がちにこちこちしき漢語をまじえ、おのこどもの書きなすものと、別ちなきやうに見ゆるそうたてき。そもそも文は。その書きふりうるはしければ、なんとなうゆかしく覺ゆるものなるを、女子にふさはしからぬ、とげとげしき文字のみ流行すなれば、いかてと思ひたちて、連綿墨つぎの法を考え『御候』字などのおき所をたゞし、熟語を除くほかに、多く假字文字を用ゐたり。云々編者誌す

同

高等 **女子文かきふり**

實價金三拾二錢　郵稅金六錢

この書も亦女子が書翰のかきぶり、八拾壹題百四拾一章をつらねたる女子手跡の模範とすべきものなり。

同

再板 **かな習字帖** 三册

實價各金拾錢宛　郵稅各金二錢宛

此の書は、各女學校の習字科に撰定せられ、高等中學二年以上に相當する行、草躰の習字帖なり、自修の稽古本に適當のものなり。

炭谷小梅女史著

藝妓内幕 **藝者と手掛**

實價金三錢　郵稅金二錢

此書は炭谷小梅女史が、藝者と手掛の内幕を遺憾なく披露せられたるものにして、市下諸新聞は之を轉載或は細評せられたるものなり。

櫻井成明君著

貞節龜鑑 **貞婦お石**

實價金壹錢　郵稅金貳錢

貞婦お石が實に婦人の龜鑑たるべき貧困の中に舅姑の病氣を看護し、不良の夫が亡命して行方知られすなりたる后は、尚更に田を鋤き畑を耕し、其苦節言語に堪ゆ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

櫻井明石君譯

希臘孝子 腓立比(ピリピ)物語

大形洋綴美製
正價金卅五錢
郵稅　金六錢

今を距ること六十年希臘國の勇士等。土耳其國の壓制に堪へず義兵を擧げたりし時、一方の將となりたる、メサロスなるもの戰敗れて、其妻と共に奴隸に賣られて、遠くアラビヤのバグダッドへ連れ行れて、苦役に服しをり、其子腓立比其時六才なりしが、或人に養育せられて、十七才に至りたる時、土國より遣はされたる管領の危難を救ひしが緣となり、管領腓立比の至孝勇猛に感じて莫大の金を與へ、船を用意させて兩親を贖ひに出しやり、船中にて腓立比は船長のメ危難を二度助け、又船長の助言により腓立比基督信徒の身を以て、土國マホメット宗徒の假裝を爲して、單身にて隊商の群に加はり愈アラビヤの沙漠の乘り込み、沙漠中にて其基督教徒なるを露見し殆ど生命も危かりしを、隊商の頭領其至孝と堅信とに感じて、大に腓立比を省みるに至り、後又隊商等がアラビヤのベドウィン族に剽掠せられ囚虜となりし時、腓立比も、亦囚人となり、爾後幾多の艱難變遷ありて、終に酋長腓立比の志に感じアラビヤの健兒に護送させてバグダッドへゆるし遣り、バグダッドにて非常の困難に遇ひ大失望したりしも、圖らぬ助を得て遂に兩親を奴隸苦役の中より十二年目に芽出度救ひ出しぬ。

右は譯者が三年の辛苦を經てものせし、悲むべく喜ぶべく驚くべく憎むべく、境遇の變化、涙なくして讀をへられず。譯者或人に與ふるの書は「實に小弟初めより此種の文學にならはず殆んど產の劬勞をいたし、或は車上に巢林の戲曲を繙きて、兩眼のいたくかすむをも顧みず、枕邊に曲亭の集を備へ指頭の寒に感覺なきに至り云々。請ふ一本を購ひ欺さるを知れ。

發行所　東京下六番町　女學雜誌社
賣捌所　同出雲町　警醒社書店

不知庵主人著

烏留好語

正價廿五錢
郵稅四錢

發行所　東京新橋出雲町　警醒社書店
賣捌所　同下六番町六番地　女學雜誌社

隔週 評論 發行

第拾貳號目錄

講壇
日本の基督敎傳道（山月子）◎
四人の我（二）ストウカル

文學評論
情熱（透谷）

史傳
德川家康の仁政（布川靜淵）

徒然草
哀詞序（蟬羽子）
にほわぬ花（花圃女史）

雜錄
割戀愛（晩婚黨員）◎
社會學研究書目（二）

海外風信

本誌代價			
六冊	前金三十五錢	府外三十八錢
十三冊（半年）	同 七十三錢	同 七十八錢
廿六冊（一年）	同 一圓三十錢	同 一圓四十三錢
一冊金六錢	郵稅	金五厘

發行所 東京麴町區下六番町六番地 女學雜誌社

皇后陛下 明宮殿下 御覽の書

（リツトル○ロード○フホントルロイ）

再版 小公子

子供のよみ本 若松しづ子譯

森田思軒居士の批評

余紛々たる世間の譯文に於て平生甚だ許可少なし獨り若松賤子の「小公子」に驚嘆す今「罪と罰」を得て又之を二にせむとす二書が皆な其文を俗話躰に取りしは極て智なり苟も俗話を以て文となせば其詞を採り其の方式を求むるの廣くして且つ便なる車夫厨婢の偶語も直ちに我か文の資とならざる無し若し專ら雅言を用ひは「小公子」のフホントルロイか始て老侯爵に謁する處本書の醉漢が醉言する處の如き余は恐る縱ひ賤子不知庵が如意の筆を以てするも寫して今の文の半ばにも至るを得ること能はざるを余は是に於て益々世間の譯者の弱處が其詞に貧なるの一事に根する者多きを知る。

實價金貳拾八錢 郵稅金八錢

發行所 東京麴町區下六番町六番地 女學雜誌社

取次所 東京◉東海堂、巖々堂、東京堂、武藏屋、警醒社、京都◉便利堂、東枝律、大阪◉岡島、梅原、神戸◉福音社、熊本◉草野、函館◉福音舍

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

化粧用パスタマック

新着廣告

パスタマックは曾て世上に高評を博し紳士淑女方は勿論花柳の粋士常に愛用せられ歐米上流社會にても專ら用ひらるゝ處にして其功用は贅せず共諸君の熟知せらるゝ通り右品久敷品切れに相成居候處今般製造元より澤山輸入仕候間何卒御用向之程奉希望候 帽子肩掛膝掛其他小間物類新荷着仕居候 西洋小間物并に

金銀裝飾品歐米有名會社製造化粧品販賣

京橋區尾張町新地

玉屋洋品店

●求安錄

內村鑑君著

定價二十五錢　郵稅四錢

●新刊八月發賣 再版 基督信徒の慰

定價二十錢　郵稅四錢

●コロムブス功績

附錄未來觀念の現世に於る事業に及す勢力

肖像、地圖、年代記入

定價十六錢　郵稅四錢

●德婦美談

北山巖氏譯　西洋

全二冊定價五十錢

●家庭の友

田中達氏編

定價十五錢

發賣　東京市新橋出雲町一番地　警醒社書店

賣捌　東京市麴町區下六番町六番地　女學雜誌社

本校當學期より。高等科、普通科、の各級共入學を許す、至急申込を乞ふ、但し規則書を要する向は郵劵二錢寄送あれ

東京市麴町區下六番町六番地

明治女學校

一雜誌及び書籍代金二十錢未滿は郵劵代用不苦候、郵劵は五厘切手一割增の事

一雜誌及び書籍代金通運便にて御送付の向は屆け賃とも濟にして御送付相成度候

女學雜誌代價

六冊	前金 三拾五錢	府外 三十八錢
十三冊(半年)	同 七拾三錢	同 七十八錢
廿六冊(一年)	同 一圓三十錢	同 一圓四十三錢
一冊	金六錢	郵稅金五厘

廣告料及無料廣告

一行(廿七字詰)　一回　前金拾錢

同　三回以上　一割引

同　六回以上　二割引

○十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上四割引。

但し不道德なる廣告は謝絕す、慈善の廣告は社議の上無代價にて引受く○特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を掲くるものにて一切無料さす但紙面半頁分の廣告を載する毎に右雜誌十部注文を要し以上半頁毎に十部增さ定む。

明治廿六年四月廿五日內務省許可
明治廿六年九月十五日印刷
明治廿六年九月十六日發行

發行兼編輯者　東京市麴町區下六番町六番地　巖本善治

印刷者　仝牛込區市谷加賀町一丁目廿三番地　根岸高光

發行所　東京市麴町區下六番町六番地　女學雜誌社

印刷所　仝牛込區市谷加賀町一丁目十二番地　秀英舍工塲(電話十九番)